

医師は語る



医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

「根元（ねもと）の医療」の実践

思い起こせば「根元（ねもと）の医療」を始めたのが、丁度二十五年前のことでした。とにかく医療の世界では新参者でしたから、皆さんに理解して頂くという一生懸命でした。ですから二十五年という歳月は、本当にあつという間でした。「根元の医療」とは、病気の根元を調べる、自己防御力診断と病気の根元を治療する、還元電子治療のことです。これらは同時に出来上がったのではなく、はじめに還元電子治療が始まり、少し遅れて自己防御力診断が完成しました。

いつの時代も沢山の病気が蔓延し、大勢の人が亡くなってきました。しかし全ての人が病気で倒れるわけではありません。ときには老衰で亡くなる人もいます。また病気になっても食生活や生活環境を変えようと、すっかり治ってしまうこともあります。本来私たちには生まれながらにして病気を防ぐ力があり、それを高

めておけば病気を予防でき、また病気を治癒（ちゆ）させることができると、そんなことが分かってきました。通常私たちが病気と呼んでいるのは、草木に例えると幹や枝葉を見ているのです。しかし幹や枝葉が生えるには根が必要で、病気が起こる場合も、必ず病気の根があるはずで、それが、病気を防ぐ力の低下を指しています。これを臨床で調べるためには、客観的な評価方法が必要です。そこで完成させたのが自己防御力診断です。また自己防御力を回復させるための治療法が、還元電子治療になります。

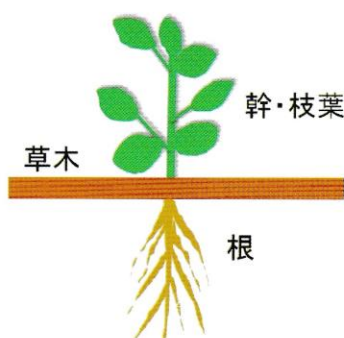


図1. 病気の根

還元電子治療の誕生

病気の根元が何であるかは、ほぼ分かっています。人の身体は細胞でつくられています。外傷を除いては、通常新陳代謝の良い細胞が病気になることはありません。また仮に病気の細胞が発生しても、免疫力の

丈夫な人は、病気の細胞を除去できます。ですから病気に発展することは、ほとんどありません。よって病気の根元とは、細胞の新陳代謝が悪くなることと、免疫力が悪くなることです。

それでは細胞の新陳代謝が悪くなるのは、主にどんな理由でしょうか？それは細胞に溜まる老廃物しかありません。私たちは食事を摂ると、お腹が満たされ身体が元気になります。ときに元気を通り越して眠時間か経つと大や小の方も排泄します。実は細胞も全く同じです。細胞がご飯を食べると、そこでエネルギーをつくりますが、じきに大や小が排泄されます。これが老廃物です。名前はどうでもいいことですが、活性酸素、フリーラジカル、二酸化炭素、乳酸などです。このような老廃物を除去できるのは、還元性を持った物質しかありません。

還元性とは、容易に他の物質へ渡し得る電子を持っています。電子をもっている電子は還元性ではありません。自然界では食べ物の抗酸化物質と空気中のネガティブイオン（マイナスイオン）が、その電子を持っています。そこで単純な発想ですが、機械的に電子を生らせて、積極的に身体を還元化すれば細胞の老廃物を除去できると考えました。これが還元電子治療のは

じまりです。

ところで私は幼少の頃、北海道の辺りなどところに住んでいましたので、冬に風邪で高熱を出すと、町の診療所に行くのがとても大変でした。沢山雪が積もっている時は、馬に馬そりをつないで出かけることになりました。それで風邪を引かないようにと、ミカンを食べることもありました。ミカンにはビタミンCやβ-クリプトキサンチンなどの抗酸化物質がいっぱい含まれています。その還元性により免疫力が丈夫になるので、風邪予防になるのも当然です。ですから機械的に還元性を与える還元電子治療は、臓器の細胞だけでなく免疫細胞の新陳代謝を促す場合にも、とても有効なのです。



図2. 還元電子治療

自己防御力診断の難しさ

前述のように病気の根元が、細胞の新陳代謝の低下と免疫力の低下で

あることは分かっていました。しかし、それを日常的に評価できる検査方法が無かったのです。どうやら細胞に溜まる老廃物を測定できるのか、とても難関でした。できてしまえば簡単ですが、細胞浮遊液の浸透圧を高くすることで解決しました。細胞内液を細胞の外に引っ張り出すことで、うまく測定できるようになりました。また免疫力は、臨床的経験からリンパ球と単球という二つの免疫細胞の測定から容易に評価できるようになりました。

ところが細胞の新陳代謝が良く、かつ免疫力も良いのに病気が発症したり、既存の病気が悪化することがあります。ここを解決するのが、炎症の鎮静度です。臨床ではしばしば経験することですが、炎症があるうちは病気が治らないのです。炎症が鎮静化すると、病気の治癒も早まります。そこでステロイド、または非ステロイド系の消炎剤を投与することがあります。

病気の場合は炎症の評価にCRP（C反応性蛋白）を測定しますが、病気を引き起こす微小な炎症については、血液中のラジカル生成能を調べると便利です。

- このように病気の根元を調べる自己防御力診断は、
- ①細胞の元気度
 - ②免疫力の丈夫さ
 - ③炎症の鎮静度

の三つから構成され、定期的にチェックすることが大切です。もし自己防御力が悪ければ、病気を防ぐ力が無いので、やがて病気が発症します。一方、ずっと自己防御力が良ければ、いつまでも健康で過ごし、そして十分に人生を楽しみ、最期はピンピンコロリとなるでしょう。

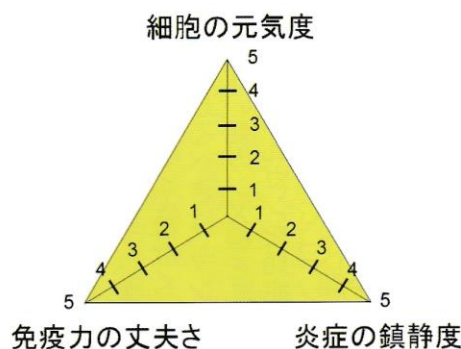


図3. 自己防御力診断

【堀口裕先生プロフィール】
北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院。現在堀口医院理事長兼院長を務める。世界で初めて細胞の中を調べる「細胞内検査」を独自に考案され、世界各国で特許を取得。またその細胞のコンディションを取り戻すための「還元電子治療」を独自に開発。二〇二一年五月、世界中医薬学会連合会、自然療法研究専門委員会、副会長に就任。現在は、病気の根を調べる「自己防御力診断」と病気の根を治療する「還元電子治療」を駆使し、全国で一万六千人以上の患者の治療に取り組む傍ら、「根元の医療」と呼ばれる新しい医療を推進し、全国で講演活動を行っている。